

## 南小たば風通信 2019

令和元年5月24日（金） 第3号

**お忙しい中、ありがとうございました！！**

先日、2回目の理論研究が行われました。運動会の特別時間割の中、さらには休憩時間の中でしたが、たくさんの先生方にご参加いただきありがとうございました。また、講師を引き受けてくださった稲船研究部長もたくさんの資料を用意していただきありがとうございました。

**① 授業づくりのポイント「話したくなる」「考えたくなる」授業に変えていくために**

楽しくて力がつく国語授業の指導方法の一つに「教材のしかけづくり～10の方法」があります。ただし、あくまでも方法の一つにすぎませんので、「指導事項」などをしっかりと踏まえて「指導内容」を抽出し、ねらいをはっきりとをもって授業を進めていく必要があります。

- |          |          |         |        |        |
|----------|----------|---------|--------|--------|
| ① 順序を変える | ② 選択肢を作る | ③ 置き換える | ④ 隠す   | ⑤ 加える  |
| ⑥ 限定する   | ⑦ 分類する   | ⑧ 図解する  | ⑨ 配置する | ⑩ 仮定する |

10の方法の具体的な内容については、配付された資料のほか、本にもたくさん紹介されていますので、興味のある人はぜひ見てみてください。

**② 「わかる（できる・楽しい）を100%にする」授業って？**

「授業がわかりづらい」と訴える児童の層を確認し、指導の工夫で解決できるものなのか、個別の配慮が必要なのか（個別の配慮にはさらに2つのレベルに分けることができる）、そこを見極めていく必要があります。指導の工夫については、先の10の方法などが含まれます。個別の配慮については、苦手な内容に応じて、「スリット板を用意する」「ルビをふる」など、資料に記載されているものを参考にしてみてください。また、「授業のユニバーサルデザイン」についても資料にくわしく書かれていますので参考にしてみてください。

ほかにも、アンケートを見ると、「作文を書くことが好きではない」「考えたことを発表することが好きではない」児童が半数近くいます。それらを解決するためには、言語活動例などを参考にし、つけたい力と一致した言語活動を位置付けるなど、単元としてしっかりと計画を立てていくことが大切です。

いろいろな資料が配られて、様々な技術や方法が提示されましたが、何度もお話に出てきているように、「これらをすべてやりなさい」ということではありません。校長先生や教頭先生のお話にありましたように、南が丘小学校の研究テーマ・学校で決められたことの範囲の中でできることをやってみませんかということです。教師としての引き出しが多いといろいろな児童に対応できるようになります。チャンスがあればいろいろと実践してみてください。

6月5日の5時間目には山本先生による提案授業が予定されています。内容など、詳細は決まり次第お知らせします。よろしくお祈いします。自習の準備などお祈いします。
--